

社団法人 長野県造園建設業協会

広報誌 | 発行：平成22年9月

ねっこ

特集 座談「高校生と語る未来の造園業」

造園の魅力って何だろう...1

造園というしごと...5

緑の達人に聞け...7



西澤 國之さん

校内外でのクラブ活動や研究発表もありました。

西澤 本校には4学科がありますが、造園科は長野県下でも唯一の学科です。最近は環境保全や緑化に社会的な関心が高まっていることもあって、造園デザインを知りたい、技術を学びたいと入学してくる生徒も多いです。1年次に基礎を学んで、2年次にコースを選択するのですが、造園科には、環境工学、緑地計画、造園技術の3コースがあります。

司会 こんにちは。今日は須坂園芸高等学校をお訪ねして、造園の魅力を感じていただけたらと思います。造園の魅力って何だろう、どんな未来があるのだろうかということをお話ししてくれませんか。

須坂園芸高等学校は、長野県下で唯一、造園科がある高校です。広い学校敷地内には、さまざまな庭園や緑地が設けられており、恵まれた環境の中で生徒たちはのびのびと高校生活を送っています。こうした庭園などを管理するのもし生徒たち。造園の分野では全国的にも知られ、(社)日本造園建設業協会が主催する「全国造園デザインコンクール」では、平成17年度から5年連続で文部科学大臣賞を受賞するなど、目覚ましい活躍を見せています。そんな須坂園芸高校をお訪ねして、造園科に学ぶ生徒と、造園の魅力や未来について、語り合いました。



青木 元さん

司会 では高校生の皆さん、自己紹介をお願いします。普段、皆さんはどんな活動をしているんですか。

全国大会やコンクールで活躍

藤んです。今日集まってくれた生徒たちも、それぞれ全国的な大会やコンクールなどに取組んでいます。よろしくお願いします。

青木 青木元です。今、文化祭に向けて玉垣の製作をしています。墨竹や木材の焼きなども最初から手がけていくのは難しさもありますが面白いですね。部活では造園クラブに所属し、部長をしています。全国大会に向けた練習に取り組んでいる真っ最中です。実は、1年生の時には全国大会に出場したので、自分が未熟で、先輩の足を引

造園の魅力って何だろう

座談「高校生と語る未来の造園業」 特集

◆出演者

牧原 真さん(株式会社牧原園芸)
中島 俊さん(株式会社あかね花)
北村千鶴さん(株式会社昭和カーテン)

長野県須坂園芸高等学校

教諭 西澤 國之さん

3年生 青木 元さん

池本 幸さん

野口あずさん

司会 協会事務局



つ張ってしまったという苦い思い出があります。それだけに今回は、3年間の集大成として発表した大会にしたい。そういう気持ちで、毎朝グラウンドで練習を繰り返しています。

鈴木 幸さん と言います。植物や庭園づくりに興味があって、そういう勉強がしたくて造園科に入りました。緑地計画コースで造園設計を学んでいます。私は、1年生の時から全国造園コンクールに挑戦させてもらったのですが、最初はわからないことが多くて、早く大変でしたけれど、やり続けた時の達成感はとても大きなものでした。自信になりました。

2年生になってコースに入ってから、授業はもちろんですが、部長をしている造園クラブの課外活動やボランティアで地域の人も一緒に働く機会が増え、いろいろな数えてもらったり、そうしたことも大きな経験になっていると思います。



鈴木 幸さん

野口 恵理さん 野口恵理です。造園クラブの副部長をしています。クラブでは、今年5月に埼玉県の西武ドームで開催された「国際バラとガーデニングショウ」でガーデンコンテストに出品しました。

作品名は「The Dream Garden」です。3年生部員が共同でデザインして、4月から作品の製作に取りかかったのですが、ゴールデンウィークも毎日集合

して作業を行い、なんとかコンテストに間に合わせる事ができました。設計はもちろんですが、アーチやフェンスなどすべて手作り。勉強を考えた、管理をしやすくて工夫したりと、大変でしたが、入賞することができました。とても貴重な体験で、造園の多様な面白さを感じることができたと思います。

今は、文化祭に向けて、屋上緑化をテーマに作品づくりに取り組んでいます。とくろです。

造園は実に幅の広い世界

司会 今度は、日ごろ造園の仕事に携わっている皆さん、お願いします。

北村 北村千尋さん お聞きします。北村 北村千尋です。生徒さん達のお話をうかがっていて、さすが須賀園芸の伝統は素晴らしいと改めて感じました。樹木への経験していることは持家にならなくて、とても有意義なことです。

皆さんも感じていると思いますが、造園は実に幅の広い仕事です。公園ひとつとっても、そこには植栽があり、休憩所や遊具があり、ベンチやフェンス、資材などもあつて。そうしたことをトータルに取り組んでいくのが造園の仕事です。



北村 千尋さん

ただ樹に詳しいとか、庭いじりが好きだというのは違つたですね。ですからさまざまな分野のプロフェッショナルが集まってくる。そこで互いに協力し合いながら、ひとつの環境を創りあげていくわけです。チームワークが大切なんです。

デザインだけが担い歩きしていてもいい作品は作れません。樹だけが自己主張していてもいい環境にはならない。緑がいきいきしている環境をつくることで、「誰か」に喜んでもらう。それを一番のやりがいとしている仕事なんです。

佐藤 佐藤寛と言います。私は実家が造園業者だったので、その仕事を継ぐという形になっていますが、小さい頃から見てきて、緑が造園というのには幅が広い世界だなあと感じていました。

公共的な公園から、街の中の広場や緑地、街路樹の剪定、個人宅の庭園まで、実にさまざまです。一つとして同じものがありません。しかも、ずっと残っていくものなんです。

動き始めてから現在まで、携わってきた現場はしつかり覚えています。近々を過ぎかかったけれども、仕事をしていた時の想いが、出来上がった時の達成感が、ずっと思い出します。

お客様と一緒に景観を育てていく

中島 中島敬です。今の時期は街路樹などの剪定が主なのですが、春夏秋冬さまざまな仕事に携わって、その意味



中島 敬さん

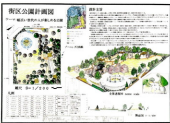
ではたいへん季節感のある仕事だと思っています。

例えば、ある個人のお客様の外構工事では、石のアプローチを作って、そこに何十種類もの樹木を植えていく。樹はいきいきするから、植えればそれでいいわけではなくて、先を考えると、育ちやすく、美しくなるように工夫を凝らすわけです。そうやっていく、それが大きな楽しみの一つです。

また最近では、学校のグラウンドなどを芝生にするという仕事も増えてきています。校園緑化の取り組みの一つなのですが、スポーツをしたり遊んだりする上でも緑に直接触れ合う楽しさが伝わります。

でも芝生化といっても簡単ではないんですよ。土壌を掘り起こして、水撒きができるようにスプリンクラーも埋め込んで、整地をして、維持管理もしていくわけです。

造園の仕事は、ずっと残っていくものですが、維持管理をしていかなければいけない。その点は、設計をする時から、現場を思い描いて、後々のことも考



社日本造園建設業協会が主催の「全国造園デザインコンクール」で、須賀園芸高校は平成17年度から5年連続で文部科学大臣賞を受賞。有の作品は平成21年度国土交通大臣賞受賞作品、平成16年度、18年度に於いて全作品中の最高賞は3作品品と成る。

えて、作り込んでいきます。ただ頭の中だけで考えていただけではいいものにならないですね。

知識や技術は、毎日の積み重ね

青木 そうい知識や技術を、皆さんはどうやって身につけていくんですか。
北村 「これをこのようにやりなさい」と言っただけの通りではきたら簡単なんです。なかなかそうはいきません。造園の技術には、先輩の仕事を見て、自分でやってみて、考えて工夫をして身につけていくという部分も多いんですよ。

ですから、毎日の仕事の中での積み重ねだと思います。私もいまだに勉強中です。

中島 特に樹のことは本場に今でも勉強、勉強ですね。苗木にするもの、街路樹に使われるもの、どの一つをとっても、さまざまな特徴や個性があって、特定の仕方でもさまざまな考え方があって、お客様の要望という面もありますから、勉強しないといけない。先輩にも聞きましますし、調べたりもしますが、奥が深い。

現場をしつかりと見る、興味を持つ

鈴木 造園の設計とはでは、どうやってアイデアを生みだしていくのですか。
北村 難しい質問ですね。基本は、現場をしつかりと見て、そこにふさわしい無観を思い描いていくことですが、自分一人の経験や知識には限りがあり

ますから、とにかく見聞を広めようというところでしようか。
中島 興味を持つ、ということがまず大事だと思います。

わからないことがあっても、うやむやにしない。聞いてみる、調べてみる、考えてみる、やってみるということですね。

興味を掘り下げていくことで、自分はどこに力を入れていくのか、何を強みにしていくのかを見つけていく。私の勤務先は高校から近いので、もしわからないなというところがあったら、いつでも聞きにきてください。



佐藤 寛さん

佐藤 他的作品をみて「まねる」ことも大切ですね。自分の発想にはなかったようなアイデアとか、新しいテクニックとか。本や雑誌からでもそういう発見があります。ただ、それをそのまま利用できるわけではありませんから、自分なりに消化していく。それを実際の仕事の中で応用できるものは応用して、現実とすり合わせていくんです。とにかくいろんなものを見て吸収すること大切だと思います。

もっともっと見聞を広めよう

野口 これからの造園技術者に必要なものって何だと思いますか。



野口 高志さん

中島 私たちの仕事は、樹といきものと関わっているわけですが、さらにお客様や利用される方とも関わっている。人と話して、樹と対話している仕事。造園業という何となく静かな職人気質と思われるかもしれませんが、仕事の間にはお客様ともたくさん話をしたり、一緒に考えたり、新しい提案をしたりということがあります。コミュニケーションは大切です。

北村 さきほど私は、見聞を広めようと言いましたが、造園に携わるものにとつてこれから最も大切なのは「フィロソフィー(哲学)」を持つことだと思います。自分はどういう「信念」「思い」を持つてこの仕事に臨んでいくかということですね。

いま造園設計の話がありましたが、よく「コンセプトは何が」という話をします。設計の「意図」は何か、でも、どんな「意図」でやるかよりも、どんな「思い」を込めてつくっていくかが大事なことです。これは、最も根柢の部分のお話ですね。

佐藤 自分が造園という仕事をするにあたって、どういう「思い」を持ち続けるかということですね。そういう自分としての考えを少しずつでも持つようになつていければいいですね。それが本場のプロフェッショナルですが



調布園芸高校にある日本庭園「枯山水」。

岡倉 いま、先輩方の話を聞いていて、高校生の皆さんはどう感じましたか。
青木 ありがとうございます。僕は卒業後、造園の仕事をしたのと思っていました。この高校で3年間通っていて、草刈りなどの基本的なことから剪定や刈込まで、ある程度は自分でもできるよつたかなと思っています。その上で、先輩たちから技術をしっかりと学んで、身につけて、いつか「一人前」の職人と言われたいような造園技術者になりたいと思っています。

鈴木 私も就職希望です。庭というのは、人にとって癒しの場です。樹や植物にとつても大切な場所です。50年も100年ものいきいきと生き続けられるような、そんな空間づくりに取り組んでみたいと思っています。

野口 私は進学希望ですが、ここで学んだことを基礎にして、将来は公園設計などにも取り組んでいくような方向へ進みたいと思っています。今日は貴重なお話を聞くことができました。

青木 皆さんありがとうございます。

